

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	Bridge鶴ヶ谷			
○保護者評価実施期間	2026年 2月 13日		～	2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19人	(回答者数)	11人
○従業者評価実施期間	2026年 2月 13日		～	2026年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15人	(回答者数)	15人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月4日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	基準を満たすだけでなく、ゆとりのある人員配置を確保していることで、重症心身障がい児一人ひとりの状態や特性に応じた丁寧な支援を行うことができる体制を整えている。	重症心身障がい児の支援においては、安全面への配慮や医療的ケア、体調の変化への迅速な対応が重要であることから、職員同士で密に連携を取りながら支援を行っている。 また、余裕のある人員体制を活かし、児童一人ひとりの表情や身体の動きなど小さな変化にも気づけるよう意識しながら関わっている。	今後も安定した人員体制を維持するとともに、重症心身障がい児支援に関する研修や事例共有を通して専門性の向上を図り、より安心して過ごせる支援環境づくりに取り組んでいく。
2	食育活動や外出活動など、児童の興味や生活経験の広がり大切に多様な活動を企画・実施している。	児童一人ひとりの体調や特性を踏まえながら、無理のない形で様々な経験ができるよう活動内容を工夫している。 また、食育活動や季節行事、外出活動等を通して、日常生活では得られにくい体験や楽しみを感じられる機会を大切にしている。	今後も児童の興味や発達段階に応じた活動を取り入れながら、安心して参加できる環境を整え、活動の幅を広げていくとともに、より充実した経験の機会を提供していく。
3	保護者とのコミュニケーションを大切にし、安心して相談できる環境づくりに努めている。	送迎時の申し送りや連絡帳などを通して日々の様子を丁寧に共有するとともに、児童の体調や家庭での様子についても情報交換を行いながら支援に活かしている。 また、保護者が不安や困りごとを気軽に相談できるような雰囲気づくりを心掛けている。	今後も保護者との信頼関係を大切にしながら情報共有を丁寧に行い、家庭と連携した支援の充実を図っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流の機会が十分とは言えない点	重症心身障がい児の支援においては、医療的ケアや体調面への配慮、安全面の確保が必要であることから、活動範囲や交流機会が限定される場合がある。 そのため、地域住民や他機関との交流の機会を十分に設けることが難しい状況がある。	児童の体調や安全面に配慮しながら、地域イベントへの参加や地域資源の活用など、無理のない形で地域との関わりを持つ機会を検討していく。 また、地域の関係機関との情報交換などを通して交流の可能性を広げていきたい。
2	保護者会の開催や、保護者同士・きょうだい児を含めた交流の機会が十分とは言えない点	重症心身障がい児の保護者は日常的に医療的ケアや介護を担っている家庭も多く、保護者会などの集まりへの参加が負担となる場合がある。 また、家庭ごとに生活状況やニーズが異なるため、交流の機会を設定することが難しい面がある。	保護者の負担にならない形で交流の機会を検討するとともに、希望に応じた情報共有や交流の場づくりについて検討していく。 また、保護者だけでなくきょうだい児も含めた関わりについても、無理のない形で実施できる方法を模索していきたい。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 Bridge鶴ヶ谷

公表日 2026年3月16日

利用児童数 19名

回収数 11名

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	8	2		1	畳スペースがあるのが良い	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	11					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	10			1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	9	2				
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	11					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	11					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	10	1				
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10	1				
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	10	1			様々な活動があり、刺激になっている	
保 護 者 へ の 説 明 等	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	2	2	1	5		
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	9	2				
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	11					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4	3	1	2		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	11				細かく子どもの様子を見ていると感じる	
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	11					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	5	1	2	機会はあるが参加できていない	参加できる機会が増えるように今後も積極的に企画をしていきます。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	11				
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10	1			
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	9	2			
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	10	1			
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10	1			
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10		1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	10	1			
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9	1			
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	11				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	10		1	行ってきた後はとても機嫌がよい	
	29	事業所の支援に満足していますか。	11				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		Bridge鶴ヶ谷			公表日		2026年 3月 16日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		指定基準は満たしており、人員配置の点でも充実していると感じています。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		スタッフが多すぎると感じるほど、配置数は満たされていると感じます。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			個別に対応しているスペースは設けているが、個室は用意できていません。また、パーティション等の導入も考えていきます。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		ミーティングやチャットワークにて共有を行い、業務改善に向けた取り組みを行っています。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		アンケートはもちろん、それ以外の貴重な意見をもとに、業務改善に努めています。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○					
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		様々な研修に職員が分担して参加しています。			
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		保護者からの面談内容をもとに職員会議を行い、情報共有、支援に必要な内容を相談して計画書を作成しております。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○					
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○					
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員全体で活動ミーティングを行い作成しています。			

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節や行事を積極的に取り入れ、プログラムを工夫することで偏りが出ないようにしています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個々の状況に応じた計画を作成し、その中で個別と集団活動の時間を設けたものを作成しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎朝のミーティングやチャットワークを使い確認しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	○		毎日業務終了後に振り返りを行っております。また、そこでの重要な事柄は全職員が共有できるようチャットワークに記録・共有しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援記録を記入する事の重要性を踏まえ、ソフトを利用し日々の記録を徹底しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的なモニタリングを行い、保護者の意見を職員会議で共有し見直しを行っております。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			地域交流の活動の機会はほぼないため、今後は前向きに検討して活動してまいります。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○				
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		管理者・児童発達支援管理責任者が主となり、内容に応じて専門職が参加しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		新規利用の際には積極的に施設訪問・情報共有の機会を作っていました。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		移行先の施設に訪問させていただき、情報共有する機会を作っていました。今後もこのような場合には継続して行っていきます。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域の子どもの活動機会は少ないが、外出活動を通して社会で生活している経験が得られるような活動計画を行っています。	今後の課題としては、地域の子どもたちとの交流を増やしていき、さらに発達支援に繋げていけるよう努めてまいります。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		宮城野区で開催されているこの会に積極的に参加しています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時・連絡帳を用いて丁寧かつ積極的にコミュニケーションをとるようになっております。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			ペアレントトレーニング等の支援はまだ行っておりませんが、職員がペアレントトレーニングの研修に参加しており、今後に向けて行えるよう努めてまいります。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時・必要時に行っております。		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○				

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○				
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者からの相談には随時対応するよう心掛けています。またその際には傾聴することを心掛け、必要に応じた助言等を行っております。		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○			ご家族が参加できるイベントはありますが、交流の場にはなっていないように感じます。今後は保護者同士・きょうだい児同士で交流できる機会を設けたいと思います。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		事業所内に苦情解決窓口を設置し、マニュアルに基づき迅速に対応します。また職員全体で共有し、今後の支援改善を図ってまいります。		
	42	定期的な通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		施設便りやSNS (instagram) を発信しており、定期的な頻度で更新しております。		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵付きの書庫を使用しています。		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		ジェスチャーや音など、個人個人の意思疎通方法を大切にした支援を心掛けています。		
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○				
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルを策定し、定期的な訓練を実施しています。		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		定期的に訓練を行い、非常時に備えた準備を行っています。		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○				
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		医師の指示書に基づき、ご家族にも確認をとった対応をしています。		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○				
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○				
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		報告書の作成をおこない、検討を行う。必ずミーティングとチャットワークで全職員に共有している。		
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		委員会の設置と開催。定期的な研修会を開催しています。			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		委員会を設置し、そこを中心に話し合いを指針策定。面談時に保護者に説明し、個別支援計画書に記載している。			